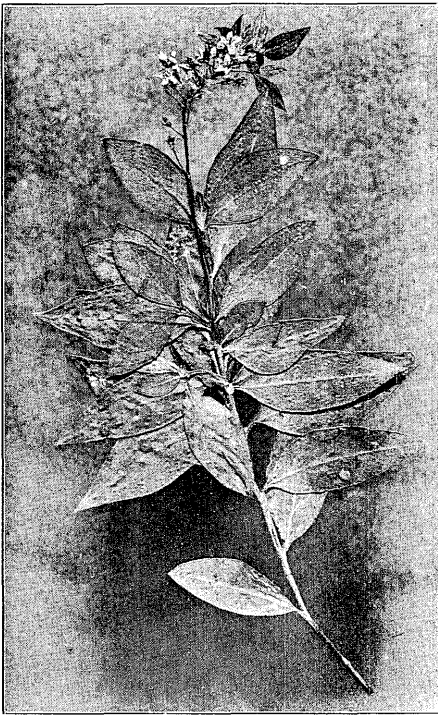


復ビ花莖カラ葉ヲ簇出スル實例ヲ報ズ

アル、樹ニヨリテハ極メテ短キ刺ガ枝ノ中ニ現ハレルコトモアル、又處ニヨツテハ必ズ短キ刺ノアルモノガアツテ長キ刺ノアル普通ノさんせうト刺ノ無イ朝倉さんせうトノ中間ニ立ツテ居ルノヲ見受ケル、私ハ曾テ此短刺ノ品ヲ Var. *brevispinum* MAKINO. トシテ發表シ其和名ヲやまあぐくらさんせうトシテ置イタ

○復ビ花莖カラ葉ヲ簇出スル實例ヲ報ズ

久 内 清 孝



な か と ら の な
(*Lysimachia clethroides* DUBY.)

余ハ本誌五ノ九號ニ於テ花莖ノ先端カラ葉ヲ出スあかそノ例ヲ報ジテ置イタ處神奈川縣警察部衛生課ノ片島正治氏採集標本中ニをかとらのをノ花穂ノ先端ニ葉片簇出シテ居ルモノヲ見出シタ
 コノ標本ニツキ觀察シテ見ルト花軸カラ一本ノ枝ガ出デ其枝ノ先端カラ數葉ガ散出シテ居ル而シテ此ノ枝ノ下ニハ花梗ノト同形同大ノ苞片ガアルカラ此枝ハ苞腋ニ生ジテ居ル譯ダ
 此點カラ考ヘテ見ルト此ノ場合ハ花梗ノ先端ニ着クベキ花ガ葉ニ變ジタモノデアルカラ花梗ノ先端ニ著葉シタノデアアル
 從ツテ本誌五ノ八ニ竹中理學士ガあらせいとうニ就テ詳說サレタ場合ニ接近シテ來ル

然シ通常葉ト花葉トノ關係ヲ考察スルニハ甚ダ好都合ナ材料ト言フコトニナルカラカ、ル個體ヲ栽培シタラ教
材トシテ甚ダ面白イト思フ勿論一個ノ畸形ニハ過ギナイガ人間ノ畸形デアル有尾人ト同様ナ意味デ花ノ起原ヲ
語ルモノトシテ大切ナモノデアルカラワザワザ報告スルコトニシタ

○斷枝片葉 (其三十二)

牧野富太郎

●どんどばな

神宮司應藏版ノ『神都名勝誌』卷ノ一二左ニ掲ゲタ圖ヲ添ヘテどんど花ト云フ植物ガ出テ居

どんど花の圖 大加圖



『神都名勝誌』ニ出セルどんど花ノ圖 (縮小)

リ其レニ「此の地〔伊勢齋宮ニアル齋王蔭子ノ御墓道〕より、艮位に當り、古路と稱する所あり。此の所に、二町許もある沼地あり。一種の花菖蒲生ひたり。土俗、どんど花といふ。花時には、恰、紫雲のたなびけるが如し。近世まで、人の、杖を曳くもの多かりき。頃年、開墾して、舊觀を失ひたりとぞ、これ、齋宮寮花園の遺趾ならむか。」ノ文ガ付ケテアル、此どんどばなハ今日普ネク人家ニ作ラレテアルはなしやうぶノ母種即チ原種デ我邦ヲ通ジテ諸州ニ野生スル、殊ニ野州日光山中ノ赤沼ケ原ナドニハ見渡ス限リ之レヲ生ジ花